



平成29年度

北海道八雲養護学校学校評議員会だより



平成29年度北海道八雲養護学校第2回学校評議員会を2月21日(水)に本校校長室において開催しました。

第2回評議員会では、校長挨拶のあと、教頭から「今年度の経営方針に基づいた取組の成果について」「学校評価の結果と改善に向けて」の説明を行いました。

その後、意見交換として、評議員の方々から、今年度の取組や学習活動、学校評価を踏まえた今後の改善の在り方などのご意見をいただき、来年度の学校経営の方針つなげていくことが確認されました。

学校からの説明の概要

<教頭からの説明>

- 今年度の取組の成果について
 - ・授業力向上の視点からの校内研修や町内の小・中学校、高等学校の授業参観などを積極的に行った。
 - ・今年度は渡島教育局から義務教育担当の指導主事を招いた研究授業を実施し、授業後に「主体的・対話的で深い学び」「考え、議論する道徳」について理解を深める校内研修も実施した。
 - ・年2回の就労体験学習や校外学習等において、町内の関係機関のご協力をいただき、地域の社会資源を活用した取組を推進している。
 - ・就労体験学習では、地域の方に直接来校いただき指導を受けたり、生徒が直接、電話やメールでのやり取りを行ったりすることを通して、卒業後の生活のイメージを広げることや電話やメールを使う際のマナーなども学ぶことができた。
 - ・ICTを活用した取り組みも積極的に行っており、今年度は新たな取り組みとして、八雲中学校第2学年の学級と本校中学部第2学年の生徒が遠隔合同授業を道徳科の授業で実施した。今後は、函館市内の高等学校と英語科の授業において遠隔合同授業を実施する予定である。
 - ・これらの教育活動の成果として、今年度「渡島管内教育実践表彰」を受賞することができた。今後も地域の皆様にご協力をいただきながら、表彰校としての期待に応えることができるよう指導や支援の充実を図っていききたい。
- 学校評価の結果と改善に向けて
 - ・教職員が行う自己評価については、今年度の経営方針と来年度に向けての重点内容等を見越し、職員の意識化を図ることも意図して評価指標の変更を行った。また、学校運営に係る当事者意識を高めることができるよう、評価指標の主語を「私は」とし、学校全体を教職員一人一人の集合体として捉えた自己評価を行うようにした。
 - ・その結果を踏まえて、「学校運営」「教育活動の充実」の2つの視点から、各学部・各分掌部において年度末反省を行い、来年度に活かしていきたいと考えている。
 - ・保護者アンケートについても、評価がしやすいように指標を変更した。ほとんどの指標において高い評価をいただいているが、今後も、保護者の期待に添うことができるよう指導や支援の充実を図っていく。
 - ・児童生徒アンケートについては、昨年度との変更はないが、まとめに個人内評価結果も追加した。昨年度との比較から指導や支援の充実を図っていく。

各評議員からの意見

【遠隔合同授業について】

- ・八雲中学校との遠隔合同授業については、お互いの学校において良い経験になっていると聞いている。中学校の生徒も八雲養護学校の生徒のことをクラスメイトの一人として考えているようである。函館市内の高等学校とも実施するという事なので、今後も、このような取り組みを積極的に行ってほしい。

【就労体験学習について】

- ・八雲養護学校の子どもたちだけではなく、今の子どもたちは電話のやり取りなど、人とコミュニケーションをうまくとることができないように思う。メールでの連絡が多くなり、電話する機会も少なくなっている。そのような中、就労体験学習において電話のやり取りを学習する機会を設定することは良い取り組みだと思う。

【ICTの効果的なについて】

- ・就労体験学習や遠隔合同授業など、ICTを活用することで自分が在学していたときと比較すると手軽にできるようになってきているので、今後も積極的にこのような取組の工夫を行ってほしい。

【学校評価の自己評価について】

- ・結果の数値だけでは判断できないが、教職員の低い評価については自分に自信がないからであり、自信をもつことで子どもたちに伝わるものがあると思う。子どもに伝わり、子どもが変わっていくとまた自信が持てるようになり、結果的に子どもにとって良い影響となるので、教師が授業等に自信をもって取り組めるよう研鑽してほしい。

<校長から>

- ・児童生徒に求める力は教師自身にも求められる力と考え、教職員も「学び」「創造」「協働」を経営方針のキーワードとしてきた。取り組みの充実を図ることは児童生徒だけではなく教職員の力量向上にもつながることと認識している。
- ・現在、学習指導要領の改定が進められており、子どもたちの学びも時代とともに変わる。教師自身が経験していない教科等もあり、教師も常に意識を高くもち研鑽を積んでいくことが必要となる。教職員の新学習指導要領の理解徹底を図るとともに運営組織の工夫も含め各学部間の連続性のある教育課程の計画的な実施に向けた整備を目指していきたい。
- ・本校にとっての遠隔合同授業は、同学年の児童生徒と学ぶことができる重要な教育活動である。本道の広域性から高校などでの取り組みが広がってきているが、本校の児童生徒におけるニーズも高い現状を押さえ、今後も地域の学校や関係機関と連携して実施の充実を図っていききたい。
- ・学校評価は、次年度につなげられるように明確な意図を持って評価指標を改定した。自己評価の数値が低いところが児童生徒アンケートの数値結果と結びついていると考えられる部分もある。今回いただいたこともご意見も踏まえ、各部署の反省や多方面からの情報も併せて、来年度の経営方針や教育活動に活かしていきたい。